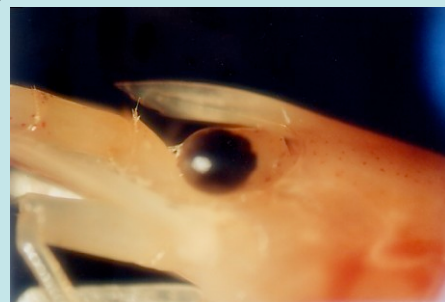


# 千葉県に生息する淡水エビ類と その簡単な見分け方



最初に見つけたトゲナシヌマエビ

## 千葉県に生息している淡水エビ (太字種を掲載しています)

ヌマエビ科	ヌマエビ属 ヒメヌマエビ属 カワリヌマエビ属	<u>ヌマエビ</u> <u>トゲナシヌマエビ</u> ツノナガヌマエビ <u>ミナミヌマエビ</u>	<u>ヌカエビ</u> <u>ミゾレヌマエビ</u> ヒメヌマエビ	<u>ヤマトヌマエビ</u>
テナガエビ科	スジエビ属 テナガエビ属	<u>スジエビ</u> <u>テナガエビ</u> コンジンテナガエビ	ミナミテナガエビ	ヒラテナガエビ
アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ属	アメリカザリガニ		

出典:新島偉行. 2001. 千葉生物誌51(2);59~81. による

千葉県に生息する淡水エビ類については新島偉行氏(2001)がご自身の調査に加えて、既存文献調査を行い千葉県における生息種と分布を明らかにしています。この成果は「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト(動物編)<2006改訂版>」に反映され、新たにヒメヌマエビ、ミナミテナガエビ、ヒラテナガエビの3種が加えられていますので、現在の所最も信頼できる資料だと思います。この報告によれば生息種は上表のとおり3科14種類です。

この中には両側回遊といって卵からふ化してから一定期間は塩分が必要なため海で暮らし、それから川を遡って定着する種が多く含まれています。“海と川の繋がり”が環境のキーワードのように入れ、アユが戻ったことなどが水がきれいになった証拠のように伝えられたりしていますが、淡水エビもそのようなロマンを持っている生き物です。

また、これらの淡水エビは南に行けば行くほど種類が多いようです。例えばテナガエビの仲間は本州四国に3種、九州に8種、琉球諸島には11種生息するとされています。上のリストにはテナガエビの仲間は4種類あがっていますが2種は文献記録のみですので今実際に生息しているのかは解りません。

千葉県沖には黒潮が来ていますし、本州から突きだした半島で且つ、利根川、江戸川で隔離された「島」としてもいいような場所が千葉県ですので、南西諸島に似て固有種或いは南方種生息の北限となっていることもあり得るのではないのでしょうか。

さて、いのちのぎわい調査団ではスジエビが指標生物になっています。しかし、川に網を入れたときに捕まるのはスジエビだけではありません。場所によってはいくつかの種類が同居しています。そんな場合の参考にして欲しいと思って作ってみました。素人が現場で出来る範囲ですので最終的判定にはなりません、判定根拠と限界(見ていないところ)をはっきりすると思います。

依田彦太郎 稲生義彦

連絡先:千葉県環境研究センター 廃棄物・化学物質研究室 依田彦太郎  
〒290-0046 市原市 岩崎西 1-8-8 TEL:0436-23-7777  
FAX:0436-23-2870